

要 望 書

所管省庁	国土交通省
要望内容	<p>4 敦賀港の拠点港湾の選定について</p> <p>敦賀港は、関西や中京などの大都市圏に近接しており、また、中国自動車道、名神高速道路、北陸自動車道、そして平成 26 年度完成予定の舞鶴若狭自動車道など北近畿における大環状ネットワークの中に位置するなど、日本海側の港湾と比較し高い優位性を有している。</p> <p>このため、経済成長が著しい中国、韓国やロシアなどとの対岸貿易や交流の促進のためにも、日本海側の拠点港湾に選定し、重点的な整備を進めること。</p>
担当部課	土木部港湾空港課
具体的現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀港における平成 20 年の取扱貨物量は約 1, 543 万トンで、日本海側では新潟港に次いで 2 番目であり、今年に入ってから、国内諸港の取扱量が伸び悩む中で、コンテナ貨物量は、11 月末時点で昨年同期比 3 割の増加で好調である。 ・大水深岸壁（－14m）を有する多目的国際ターミナルを平成 22 年秋に本格供用開始する予定であるが、新たな貨物が見込まれるため、更なる整備が必要である。 ・また、取扱貨物量の増大を図るため、中国航路やロシア極東部との新たな航路開設を目指している。 <p>【国予算額】 多目的国際ターミナル整備事業 ・ 21 年度 1, 560, 000 千円（国費：900, 900 千円）</p>
備考 (別添資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀港の優位性 ①関西・中京との近接性 ②日本海側港湾 ・敦賀港コンテナ取扱実績 ・敦賀港多目的国際ターミナル整備事業